



ケーススタディ¹ 佐藤商店²

—家業から地域の近代企業へ、先見性の遺伝子を引き継ぐ経営—

中国地方の地方都市に本社を置く、創業 50 年を迎える古紙卸売業の佐藤商店の二代目社長は、ファミリー企業トップの誰もが直面する「後継者問題」に直面している。

長男に継がせるべきか、あるいは次男がいいのか——。優れた先見性で社業を伸ばしてきた二代目社長だが、後継者問題では大いに悩む。事業承継をにらみ、ホールディングス機能を持つ株式会社佐藤を設立。佐藤商店の持株全株をそこに譲渡し、その株式の 51% を自ら所有する。今後の後継者決定に備えてのことだ。

ファミリー企業の事業承継はどうかされるべきか。何が課題になり、解決へのどんなアプローチがあるのか……。

ここでは、佐藤商店の歴史を二代目社長が入社した 40 年前まで遡り、地方都市のファミリー企業が中国の同業種を代表する企業に発展した経緯をたどる。この間、二代目はどのように育成され、どんな形で初代から事業継承したのか。さらには、三代目社長の候補である長男と次男は、どのような経緯で事業に加わり、育成されているかについて報告している。

基本データの紹介のほか、二代目社長、長男、佐藤商店で長年働いてきた取締役の回想や個人的見解、思いも盛り込んだ。事業の数値からだけでは見えてこない“ファミリー企業の成長の秘密と苦悩”に迫った。

佐保 圭³ 著

編集協力：樋口一郎⁴

監修：小西龍治⁵、久原正治⁶

¹ 本ケースの記述は企業経営の巧拙を示すことを目的としたものではなく、分析並びに討議上の視点と資料を提供するために作成されたものである。

² このケースは実在の会社を扱ったものであるが、社名、人名等は仮の名前を使っている。インタビューにご協力いただいた当社関係者に感謝する。

³ フリーライター

⁴ 日経 B P 社編集人

⁵ ファミリービジネス研究会代表理事

⁶ 九州大学大学院経済学研究院教授

Copyright©2009 はファミリービジネス研究所が保有する。

本ケースはファミリービジネス研究所が出版するものであり、ファミリービジネス研究所の許可を得ずに、本ケースのいかなる部分も、デジタル的、機械的、写真複写、録音、録画、その他の手法に拘わらず何れの形式によっても、複製、転送、配布してはならない。

お問合せ：

ファミリービジネス研究所事務局：〒104-0061 東京都中央区銀座 8 丁目 2 1 - 1 住友不動産汐留濱離宮ビル

プライスウォーターハウスクーパース株式会社内、電話 03-3546-8480、e-mail office@fabis.jp